

地域福祉・生活支援ネットワーク会議(第一層協議体)

「現場レベルの支え合い活動者同士が繋がり、情報共有を行う事で、点が線で繋がるネットワークの構築」を目指します！

お互いの取り組みを理解し、**できないところを相談できる関係作りが必要！**

似たような取り組みは、**連携し一緒に取り組むことが望ましい！**

支え合いに関わる団体や取り組みを、**もっと市民に知ってもらうべき！**



介護・医療関係機関にも、地域支え合い活動の情報を伝える事が必要！

「縦割り」を「つながり」に変えて、より効果的な仕組みづくりを目指す、地域福祉・生活支援ネットワーク会議(第一層協議体)では、参加頂いた団体の代表者から、どうすれば現場レベルでの支え合い活動者同士が繋がることができるか、というテーマで意見交換を行いました。

意見交換では、**「新しい取り組みを始めるのではなく、それぞれの活動を理解し、足りない所があれば補い合うことが必要」**とのご意見を多く頂きました。

実際に支え合いを行う「町内規模」での連携を進めるにはまず、お互いの取り組みを知ることが必要となります。

お互いの取り組みを知る為に、**①支え合い活動団体の取り組み一覧表の作成②連絡先窓口の明確化③連携の方法の共通認識を持つ連携図の作成を、**今後連携して行い、地域の支え合いを推進したいと思えます。

参加団体等：佐世保市老人クラブ連合会、佐世保市シルバー人材センター、域包括支援センター、佐世保市介護支援専門員連絡協議会、社会福祉士会、医療ソーシャルワーカー、生活支援サポーター、佐世保市社会福祉協議会、佐世保市生活支援コーディネーター、佐世保市役所長寿社会課